

いぶき 6号平成23年7月

世界の偉人たち「驚きの日本発見記」

第5回：アリス・メイベル・ベーコン（1858～1918年）

「経験や知識は売買できないものだった。たとえば、医者
は患者から治療費を請求することはなかったし、同じ藩士
からは報酬を求めたり受け取ったりすることもなかつ
た。一方、患者も誇り高いので、無料で治療してもらうこ
とはなかった。ただし、それは治療に対する報酬ではな
く、あくまで感謝のしるしとしての金だった。（中略）教
育は商売ではなく、あくまで教える側の好意なのである。だ
からといって、十分な謝礼が払われないことは絶対にない



し、教師もその点について気をもむことはなかった。料金を確認する必要がそもそもなかったの
である。」（出典「明治日本の女たち」みずず書房）

アメリカ人女性教育者で1894年と1900年の2度にわたり英語教師として来日したベーコン
は「人に益する心」と題し、「経験や知識は」商売道具ではないし、対価を得るもの
ではない。何でも「お金」や「商売契約」となる欧米の考えに対して、日本では「好意」と「感
謝」が一对になっていると主張しています。自分の利益を追求するだけの欧米に対し、日本には
相手も自分も世間も良しとすべきという「三方良し」の考えがあり、その方が自分も皆も幸せに
なれることを日本人は潜在的に知っているのです。